



虹の丘キャンパス・石彫

三島学園報

VOL.6
2006.6

- 卷頭言「短大のよさを知ろう」
- 三島学園子育て・家庭支援センター設立
- 栄養教諭制度の創設
- 短大・高校初の男子卒業生



学校法人 三島学園

短大のよさを知ろう

学校法人 三島学園 理事長
池上 雄作

短期大学の低迷が語られて久しい。統計で見ると、短大数は平成8年の598校から平成17年には480校に減少し、在学生も平成5年には53万人、17年には22万人となっており。4年制大学だけが一方的に増えて17年には726校、在籍数286万人余りとなっており、専修学校も減少に転じてきている。

こんな時期にあって、各短大には自らが持つ特色を最大限に生かしていくことが求められるが、8年前に当時の大学審議会は短大の在り方として、①教養教育と実務教育とが結合した「専門職業教育」、②より豊かな社会生活の実現を視野に入れた「教養教育」、③地域社会と密着しながら幅広い年齢層に対応した「生涯学習機会の提供」等が想定されるとして教育機能の一層の充実を期待した。このことが基本になり、その後「ファーストステージ」論が出てきた。これは4年制大学など短大卒業後の教育につなげていくための役割を強調し、編入学への道の前段階として短大での学習を活かそうという推奨である。アメリカの2年制Community Collegeにはそれが強く生かされている。Community Collegeのもう一つの特徴である地域密着型の教育体制を考えて「地域総合科学科」への改組も多くの短大で進められてきた。

資格取得のためのコースの新設を含めて、特色を鮮明にするための努力は続けられているが、高校を卒業した受験生は4年制大学への進学と資格取得を目的とした専修学校での学習に大きく偏っており、短大はその狭間に置かれている感がある。しかし、これまでの短大歴史50数年間の実績を振り返ってみて、短大の良さが広く見直されるときがきっと来るに期待している。それは短期2年間で高等教育が受けられることに誇りをもって良いと思うからである。大学4年間で学ぶ学科のコースの基本的なところだけを短期2年で修得して「短期大学士」の学位を得、社会に出てから実学としてさらに学習して4年制大学を卒業した人に劣らない識見が得られる、あるいは、2年間で教員や保育士の資格を得、若くして社会人・職業人の生活に入って実のある人生を構築していく、このような生き方は高く評価される。2年間の学習で自らの志向を確立し、向学心を燃やして4年制大学へ編入学するのも健全な生き方である。18歳で選ぶ有意な進路の一つとして、社会全体がもっと高く評価すべきであると思う。

21世紀は「知識基盤社会」と言われ、高等教育は広く行き渡って欲しいが、その中にあって、短期大学2年間の学習を生かすことの意義を高く評価し、その学習に挑む若い人に期待したい。

Information

●大学・短大

「オープンキャンパス2006」

- 日時／平成18年7月30日(日)、8月11日(金)9:30～
- 内容／体験学習・キャンバス見学・受験相談コーナー
- お問合せ／東北生活文化大学・短期大学部 入試課 TEL:272-7521

●大学・生活美術学科

「2006夏期 高校生のためのデッサンセミナー」

- 日時／平成18年7月31日(月)～8月7日(月)
- 内容／基礎デッサンの実技講習
- お問合せ／東北生活文化大学・生活美術学科 TEL:272-7519

●高校

「第1回学校説明会」

- 日時／平成18年7月15日(土)9:30～13:00
- 会場／東北生活文化大学高等学校

●高校

「第7回中学生美術コンクール」作品募集

- 課題テーマ／「顔」～カオ～
- 作品サイズ／B3サイズ
- 表現技法／平面(技法・材質は自由)
- 受付期間／平成18年8月24日(木)～29日(火)
- お問合せ／中学生美術コンクール事務局 TEL:272-7522

読書活動優秀実践校として 文部科学大臣表彰を受ける

平成18年度「子ども読書の日」記念「子どもの読書活動推進フォーラム」が4月23日に東京都国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、全国から小中高137校、54図書館、56団体(者)が読書活動優秀実践の文部科学大臣表彰を受けた。本校は朝の読書活動に取り組んで7年目を迎え、また県内の小中学校生を対象とした「読書クイズ王決定戦」を過去4回実施し、読書活動の推進を積極的に展開してきた。当日は、全国から4学校・2図書館・2団体(者)が選ばれ、本校は高校代表として吉田実、長岡貴史両教諭と西山まどかさん(普通科美術コース2年)が壇上で表彰を受け、実践事例報告を行った。



三島学園 子育て・家庭支援センター設立

子育て・家庭支援センターの設立のきっかけは、2年前の平成16年に遡る。当時、本学の短期大学部に保育士養成課程を新設するに当たり、その教育目標の一つとして「地域の子育て支援の役割を担う保育士の養成」ということを掲げた。近年、児童福祉法改正で、保育士の資質向上が目標として取り上げられ、保育士には、単に保育所に通っている子供への対応のみならず、地域の実情に応じた子育て支援活動を展開することが求められるようになった。このような要求に対応するため、本学では保育士を養成するための実践の場として、また地域貢献の場として「子育て・家庭支援センター」を計画することになった。

その後、本センター設立に向けて準備委員会を設け、「三島学園子育て・家庭支援センター規程」を作成し、本年4月に開設するに至った。本センターには、地域を対象として、大きく分けて二つの機能がある。一つは、親子遊びの実践の場としての役割であり、さまざまなテーマで愛称「のびのびくらぶ」として定期的に開催することにした。二つめは、公開セミナーや保育・育児相談、カウンセリング、グループワークなどを通じて、子育てについての専門知識の提供・相談を行うことによる学術的なサポートとしての役割である。

今後、設備や専任職員の充実など解決すべき課題を抱えているが、これらの活動を通じ大学と地域が協力して支援活動に取り組むことによって、地域に対する貢献と保育士の資質向上に繋がることを期待し、また、本学園内の連携、一体化をさらに前進させる取り組みとして、鋭意努力していく所存である。

(三島学園子育て・家庭支援センター設立促進委員会 委員長 大庭 清)

栄養教諭制度の創設

平成17年4月に栄養教諭制度が施行された。近年、子どもの食生活の乱れが顕著になってきていることから、学校でも食に関する指導を充実させ、食の自己管理能力の育成や望ましい食習慣の形成を促すことがきわめて重要であるとの認識が制度創設の背景にある。したがって、栄養教諭に期待される役割としては、食に関する指導についての全体的な計画策定に積極的に参画し中心的役割を果たす、児童生徒への個別的な相談指導を行う、給食の時間や学級活動など学級担任が作成する指導計画に基づいて指導の一部を担当する、家庭科や保健体育科の授業、総合的な学習の時間で教員と連携協力して食に関する指導を行う、などである(文部科学省の例示による)。

本大学では、家政学科健康栄養学専攻に栄養教諭一種免許状取得のための課程を置き栄養教諭の養成を行っている。栄養教諭の職務内容が明確ではない、栄養教諭を置くかどうかは教育委員会や学校の判断による、そしてなによりも制度の運用が始まったばかりで多くの大学では模索の状態にあるなど課題が多いが、信頼され、実績をあげられる教員を養成すべく関係教員一同努めさせていただきます。

(大学・短期大学部教職課程室長 菅並茂樹)

短大・高校初の男子卒業生

恩師や学友との別れを惜しみ、通い続けた学び舎を東立していくという光景は開学から既に百年を数える学園において、これまで幾度となく繰り返されてきたものである。しかしながら今年の3月に行われた卒業式は、この長い学園の歴史に新たなページを刻む記念すべき出来事となった。雛祭りの日である3月3日、校名変更と同時に3年前に男女共学化を開始した高等学校ではこの日初めて、82人の男子生徒を含む計233人が卒業式に臨んだ。生徒たちは共学となって最初の卒業生であるという自覚と誇りを胸にこれからからの道を一步一歩進んでいくことであろう。一方、半世紀以上にわたり女子短大として多くの卒業生を輩出してきた短期大学部も、初の男子学生を社会に送り出す日を迎えた。3月15日に行われた卒業式には2年間の学業を無事終えた短大生が出席し、そのうちの5人は男子として最初の短期大学士の学位と卒業証書を授与された。大学を含めた共学の総合学園として、さらなる発展と地域社会への貢献が期待されている。



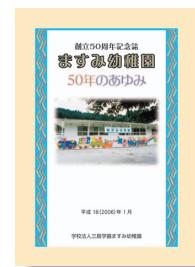
高校卒業式

ますみ幼稚園『50年のあゆみ』発刊

発刊にあたり、6人の方々とともに編集を担当させていただいた。はじめは日誌や名簿、写真など膨大な資料を前にどこから手をつけたものかと心配もしたが、幸い加藤委員長(前幼稚園長)の経験をまとめた資料があり、これをもとに編集を進めることができた。途中、先輩教職員をはじめ卒園生と父母の方々にもご協力をいただき、半世紀にわたる先輩の方々のご労苦を偲び、何とかその足跡をまとめることが出来たと思う。

なお、昭和30(1955)年、幼稚園を創立された佐藤元理事長(故人)によれば、本学園の創立者三島駒治・よし両先生は、明治38(1905)年、すでに市内の幼稚園児達を招いて天皇会という会を始めていたという。平成17(2005)年からみると丁度100年前に当たり、その意味でも創立50周年は意義深いものと思われる。本学園では、保育園が併設され、幼児教育が益々重視される昨今、本誌によりますみ幼稚園への認識を深めていただければ幸いである。

(50周年記念誌編集委員長 大槻恒泰)



同窓生情報

佐々木亜矢子さん 絵本出版

今年1月に絵本『君が教えてくれたコト』(文芸社)を出版した佐々木亜矢子(旧姓庄子)さんは、平成7年に三島学園女子高等学校を卒業、平成11年に大学家政学科を卒業している。絵本の内容は、大学在学中から共に過ごした愛犬コロへのやさしい気持ちをほのぼのと描いた絵詩集である。温かい力強いメッセージが胸に響く感動の絵本で、「何かを愛する大切な気持ち」と「生きる力」を、みずみずしいキラキラした独特的のタッチで表現している。佐々木さんは現在、この出版を機に埼玉県在住の作家として活動を開始した。これからの時代に必要な多くの気づきを与えてくれるような作家として、今後より一層の活躍が期待される。



第5回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会に2年連続出場

平成18年2月12日青森県弘前市の市民会館で、青森県主催のファッション甲子園(通称)が開催された。本校は昨年に引き続き2年連続で県の代表として全国大会に出場する事ができた。第5回大会も全国から328校2584点の応募があり大変な激戦であったが、3年生の外崎昌海・大友亮枝・阿部瞳のチームが、携帯電話依存症の現代人に対する揶揄をこめたデザインのファッションを発表し、大観衆の中大変好評を博した。

2年連続の出場ということもあり、本校の後輩にも大きな自信と期待を持たせる大会となった。当日は審査員としてアーティストの奈良美智氏もかけつけ会場を盛り上げた。



大学・家政学科

- 課題研究発表会／平成18年1月31日～2月1日（本学百周年記念棟）
- 課題研究展／平成18年3月15日（本学5号館）

課題研究の口頭発表及び展示が、4年次学生54名により行われた。課題研究は4年次の必修科目であり、各自がそれまでの3年間で学んだ内容から題目を決め、約1年かけて研究し発表する。研究分野は、保健学、生活情報学、教育学、教育心理学、言語と生活、衣生活研究、ポリマークリエイティブ、染色学、被服科学、食物学、健康医学、食品学、栄養教育学、栄養学の14分野である。発表は、これらの分野から個人またはグループによる45題目であった。学生は、新鮮な緊張感のもとで発表を行い、質疑に対して真剣に応答した。また、卒業式当日の3月15日に、課題研究展として研究をまとめたものをポスター・セッションと制作品という形で展示し、保護者の方々や学内関係者にご覧いただいた。



短大

- 課題研究展示発表会／平成18年2月24日～2月26日（イズミティ21）
- 口頭発表は初日のみ

これまで学んだ講義や実習内容を通じて興味や関心を抱いたテーマ、あるいは生活文化に関連した諸問題について研究論文や作品の形でまとめるものが短大の課題研究である。卒業学年となった学生が担当教員の指導のもと、1年間にわたって自主的に取り組んできた成果は、その熱意と修得した知識・技術を十分にうかがうことができるものばかりであった。今年は洋裁、マルチメディア情報学、染色、西洋文化研究、情報造形、シルバークラフト、野外運動研究、高分子合成の8分野・28人の研究成果が展示された他、その一部は初日に開催された口頭発表会でも紹介され、発表した学生と会場との間で熱心な質疑が交わされた。

短い会期中にもかかわらず、ご父兄をはじめ多くの来場者を迎えることができたことは、一生懸命取り組んできた学生諸君にとって大きな喜びとなったに違いない。



大学・生活美術学科

- 卒業制作展／平成18年2月10日～2月15日（仙台メディアセンター）

卒業生51名の4年間の集大成とも言える卒業制作展が例年の如く開催され、約2,000名近い来場者を集めた。作品は、洋画、日本画、版画、彫刻、デザイン、写真、インсталレーション、映像、木工、漆芸、陶芸、染色、テキスタイル、ステンドグラス、モザイク、バーナーアートと多岐にわたった。学生は自由で斬新な表現方法に取り組み、夫々の素材の可能性と技法を駆使し目標に向かって制作した。これらのが高評価され何度も足を運んでくれた来場者もいた。今回は、指導者と学生が一体となり、1日2回ギャラリートークを行った。作品の制作意図や制作過程等を直接伝えることにより、鑑賞者も親近感を持つことができ、大変好評であった。本学科の存在をさらにアピールできた展覧会であった。



高校

- 美術コース卒業制作展／平成17年12月21日～12月25日（宮城県美術館）

男子1期生も入学して早3年が過ぎた。今回初めての男女合わせた卒展となり、「ごった煮」というテーマのもと男子5名女子26名が見事に協力し合い、多種多様な作品を発表して、高校3年間の集大成とした。

また、今回は2年生のプレ卒展の参加に加え1年生も自主的に企画したサムホールによる展示を同会場で行い、先輩たちの活動を影で支えながら、大きな刺激を受けていた。先輩後輩間の繋がりもさらに深まり、美術コース3学年が力を合わせ、新たな伝統を作っていくよい流れができた。



第25回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会 2年連続出場

高校女子ソフトボール部は、佐賀県の伊万里市で3月18日～21日の4日間にわたって行われた全国高等学校女子選抜大会に今年も出場を果たした。全国の強豪が集う中、初戦を3-1(対 都城東高・宮崎県)で勝ちあがったが、まだ壁は厚く、2回戦0-2(対 辻高・徳島県)で敗れた。昨年は初戦で敗れ、今年は1回戦突破。確実に選手たちは自信と力をつけてきている。夏のインターハイに向け部員一丸となり猛練習に取り組んでいる。



学生・生徒の活躍

大学

- 第56回モダンアート展【版画部門／入選】本田 卓子（生活美術学科4年）
- 第70回河北美術展【洋画／入選】大友 紗子（生活美術学科4年）
- 第70回河北美術展【彫刻／賞候補】佐藤 純（生活美術学科4年）
- 第70回河北美術展【彫刻／入選】若月 亜由実（生活美術学科4年）
- 第70回河北美術展【日本画／入選】服部 友里子（生活美術学科3年）
- 第70回河北美術展【洋画／入選】遊佐 美智子（生活美術学科3年）

短大

- 2006年第3回年賀状大賞コンクール【版画部門／地方支社長賞】菅原 千文（生活美術学科2年）

高校

女子ソフトボール部

- 第25回宮城県私立高等学校女子ソフトボール大会 優勝

- 第15回じらかソフトボールフェスティバル 優勝

バレーボール部

- 春の高校バレー 全国高等学校バレーボール選抜優勝大会宮城県大会 第3位

美術部

- 第70回河北美術展【洋画部門／入選】高橋綾佳（美術コース3年）

人事異動

鈴木衛高校長が退任し、光井正校長が就任

4月1日付けで高等学校長が異動した。鈴木前高校長は平成11年3月に宮城県第三女子高校長を退任後本高校教諭に就任し、12年4月から高校長となり、それから6年間、高校の組織面でも教育内容の面でも改革を進めてきた。美術、保育両コースの導入に始まり、平成15年からは男女共学制を取り入れて校名を変更し、さらに商業科を情報ビジネスと経営デザインの2コースに分ける改組を行い、17年度には全コースの男女共学化を達成した。その成果が年ごとの入学生の増加に現れ、教科やスポーツの活動にも反映してきた。「生文大高」の完成は鈴木校長の抜群なリーダーシップが功を奏したものであり、学園一同深く感謝している。

光井校長は県立の蔵王高校長、第三女子高校長を歴任し平成17年4月に本高校教諭となり、このほど高校長に就任した。県内教育界ではさまざまな活動面で主導的な役割を果たし、書道、油絵の趣味もあり、これまでの多彩な経験を生かし、本高校の教育指導の中心に立って、活躍していただくことになった。



鈴木衛 前校長

光井正 新校長

1. 平成18年度採用者(平成18年4月1日付)

○虹の丘キャンパス

佐藤美貴子(短大助教授)	永田 征矢(高校現業職員:再雇用)	千葉 美香(高校常勤講師)
光井 正(高校校長)	岩渕 浩和(高校就職支援員)	佐藤 節子(高校常勤講師)
森 正行(高校教諭)	太田 美和(短大副手)	佐藤 孝幸(高校常勤講師)
鈴木 泰久(高校教諭)	酒井 正彦(高校常勤講師)	中村 啓昭(高校常勤講師)
國分 久忠(高校教諭)	山村 広子(高校常勤講師)	熊谷 聖司(高校常勤講師)
藤原 千洋(高校教諭)	青野 麗(高校常勤講師)	H18.6.1
長岡 貴史(高校教諭)	武者 仁美(高校常勤講師)	

○ますみ幼稚園

大野 滋子(園長:再雇用)	柴崎ミヨ子(臨時職員) H18.5.1
大友 理恵(臨時教諭)	

○ますみ保育園

2. 平成17年度退職者

鈴木 衛(高校長)	篠野由紀子(高校常勤講師)
大野 滋子(高校教諭)	永田 征矢(高校現業職員)
富樫 伊都(高校教諭)	

3. 昇格者(平成18年4月1日付)

大学教授 伊藤 洋子(大学助教授)	大学助教授 三上 秀夫(大学講師)
大学教授 川村 奎子(大学助教授)	大学講師 川又 勝子(大学助手)

4. 平成18年度退職者

中村 啓昭(高校常勤講師) H18.5.29	金澤 裕子(幼稚園教諭) H18.5.31
------------------------	-----------------------

【学生・生徒・園児在籍数】

学校別	学年	(単位:人)									
		1年	2年	3年	4年	合計	新規登録(新設)	新規登録(併設)	現業職員	現業職員	小計
大学	新規登録(新設)	26 (5)	27 (4)	28 (11)	32 (6)	113 (26)					
	新規登録(併設)	44 (7)	43 (6)	44 (4)	44 (7)	175 (24)					
	生活美術学科	58 (10)	52 (17)	42 (6)	47 (10)	199 (43)					
短大	小計	128 (22)	122 (27)	114 (21)	123 (23)	487 (93)					
	生活学專攻	24 (4)	34 (4)			58 (8)					
	子ども生活専攻	55 (12)	28 (8)			83 (20)					
高校	小計	79 (16)	62 (12)			141 (28)					
	普通科	345 (100)	255 (77)	202 (41)		802 (218)					
	商業科	63 (46)	43 (30)	51 (42)		157 (118)					
幼稚園	小計	408 (146)	298 (107)	253 (83)		959 (336)					
	年少	13 (6)	25 (13)	21 (11)	59 (30)						
	年中										
保育園	年長										
	0歳児	1 (6)	2 (12)	3 (8)	4-5歳児						
	1-2歳児	19 (10)	14 (7)	27 (15)	64 (33)						
合計						1,710 (520)					

()男子の人数

【教職員数】

学校別	学年	(単位:人)									
		学長	校長	助教授	講師	助手	事務職員	現業職員	小計	副手	非常勤
大学	1	13	5	12	4	11		46	5	3	
短大	1 (1)	5	4	5	4	1	19	4	2	0	
高校	1	41	1				6	2	51	2	3
幼稚園	1	4						1	6		
保育園	1	5							6	0	
合計	4	68	10	17	4	21	4	128	11	8	4
										1	19
										100	143
											271

(1)義務

【役員並びに評議員数調】

区分	理事	監事	計	(単位:人)	
				評議員(理事兼務)	評議員(理事不兼務)
男	7	2	9	13 (7)	
女	1	0	1	7 (1)	
計	8	2	10	20 (8)	

学園歴史探訪

偉大なる創設者・斎藤實子爵

岩手の生んだ大政治家・斎藤實は岩手県水沢(現奥州市)に生まれた。海軍兵学校を卒業、海軍大臣にまで昇進、さらに朝鮮総督、枢密顧問官そして昭和7(1932)年には5・15事件後の難局に内閣総理大臣の下命を受け第30代の総理大臣に就任、その後内大臣に任せられた。奇しき縁で子爵は三島よし先生の親戚に当られ、三島夫妻開設の東北女子職業学校に強い関心を持たれ、早くから御来校御支援を賜っていた。大正13(1924)年実業学校令の制定により東北女子職業学校も各種学校から職業学校に昇格、校運伸張。夫妻はこの期を逃さずさらなる飛躍のため、朝鮮総督であった子爵を設立者とすることを最善の策と考えた。同年6月子爵が母堂の命日に帰省され、帰途仙台に立寄られた折に正式受諾の運びとなった。かくして偉大なる設立者を得た女子職業学校は高等師範科設置、中等教員無試験検定認可等を得て女子高等教育機関として大きく発展した。しかし、時の流れは無常にも昭和11(1936)年2月26日未明、子爵を凶弾が襲った…。



「三島学園創設者・斎藤實」展開催

本学園創設者の三島駿治、よしご夫妻と斎藤實元首相の交流を紹介する企画展が、4月29日~5月31日まで奥州市水沢区の斎藤實記念館で開催された。企画展には学園所蔵の資料や復元された夫人の衣装等約80点が展示された。偉大なる凡人と称された斎藤氏の人間性と足跡がうかがわれる興味深い企画展に、多くの同窓生も訪れたと記念館関係者は話している。



保育園園舎増築

狭狭であった事務室、玄関、保育室の一部を新しく増築し、子供たちも職員も新たな気持ちで、新年度を迎えることができた。明るく広くなった玄関は保護者にも喜ばれ、事務室には子供たちが当番活動をしに来たり、保護者とゆっくり話のできるスペースができるなど嬉しい。今まで玄関だった場所には小さなベンチが作られたので、「絵本コーナー」として整備していただきたいと考えている。一日の大半を保育園で過ごしている子どもたちにとって、「もうひとつのおうち」としての機能をこれからも大切にしていきたい。



平成18年度年間主要行事予定表 (平成18年4月～平成19年3月)

月	大学・短大	高校	幼稚園	保育園
4	4. 入学式 5～6. ガイダンス 6～7. 新入生 オリエンテーションキャンプ 短大2年研修旅行 10. 前期授業開始 25. 学友会総会	8. 入学式・始業式・新任式 10. 第1回学力テスト 13～14. 新入生オリエンテーション (松島) 28. 遠足	10. 始園式 11. 入園式 14. 対面式 28. 保育参観・父母の会総会	2. 入園式・はじまりの会
5	19～20. 大美1年研修旅行	1～2. 球技大会 13. PTA総会・保護者懇談会 19. 生徒総会 20. 模擬試験	26. 春の遠足	19. 親子遠足
6	3. 後援会総会 10. 体育祭	3～5. 高校総体 12～16. 中間考査 23. 芸術鑑賞会	19. 身体測定 11. 歯科検診 9. 内科検診	17,30. 保育参観・懇談会 30. 懇談会
7	21. 前期授業終了 30. オープンキャンパス	18. 三者面談・海外研修出発 15. 第1回学校説明会 21～8/25. 夏季休業 26～31. 進学講習	6. 動物園見学 24. 保育参観日 30. 天文台見学	7. 七夕まつり 22. 夏まつり
8	7/31～8/7. 大美・高校生のための デッサンセミナー 1～9/18. 夏季休業 11. オープンキャンパス	28. 第2回学力テスト	15. 夏まつりバザー 19. 終園式 20. 夏休み 25～26. お泊り保育	30. 運動会
9	5～7. 博物館実習旅行 5～9. 大美2年美術鑑賞旅行 12～15. 大家2年研修旅行 19. 後期授業開始	2～3. 生文祭 10. 第2回学校説明会① 16. 第2回学校説明会② 20～26. 期末考査 26. 前期終業式	28. 始園式	27. いも煮会
10	21～22. 大学祭	2. 後期始業式 6. 体育祭 17. 私学振興大会 25. 生徒総会	14. 運動会 17. いも掘遠足・焼きいも会	
11	18. 推薦入試	11. 第3回学校説明会 13～16. 中間考査(2年) 21～24. 修学旅行(2年) 21～27. 中間考査(1・3年)	6. 避難訓練 13. 七五三お参り	2. クリスマス発表会 19. もちつき会
12	25～1/10. 冬季休業	9. 第5回読書クイズ王決定戦 20～1/9. 冬季休業	16. クリスマス発表会 19. 終園式	9,14,20. 保育参観・懇談会
1	31. 後期授業終了	17. 推薦入試 25～31. 学年末考査(3年)	11. 始園式	2. 豆まき会
2	1～2. 大家課題研究発表会 3～4. 一般入試(A日程) 9～14. 大美卒業制作展 短大課題研究展示発表会	5. 一般入試 27. 平和を想う日～柿Peace～	2. 豆まき会	7,9,17. 保育参観・懇談会
3	2. 一般入試(B日程) 10～. 春季休業 15. 学位記授与式・ 卒業証書授与式 大家課題研究展	2. 賞状授与式・同窓会入会式 3. 卒業式 5～9. 学年末考査 20. 終業式	2. ひなまつり会 16. 卒園式 19. 終園式	3. ひなまつり会 24. 卒園式 29. 大きくなったお祝いの会

※学園創立記念日……10月27日

平成17年度消費収支計算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

● 収入 (単位:千円)			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
学生生徒等納付金	982,874	982,551	323
手数料	29,137	29,879	△ 742
寄付金	29,075	28,318	757
補助金	453,860	454,022	△ 162
資産運用収入	1,270	1,743	△ 473
事業収入	70,000	70,663	△ 663
雑収入	31,400	32,499	△ 1,099
帰属収入合計	1,597,616	1,599,675	△ 2,059
基本金組入額合計	△ 44,320	△ 12,510	△ 31,810
消費収入の部合計	1,553,296	1,587,165	△ 33,869

● 支出 (単位:千円)			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
人件費	1,043,964	1,036,654	7,310
教育研究費	381,735	375,790	5,945
管理経費	152,640	156,956	△ 4,316
借入金等利息	19,800	19,451	349
資産処分差額	1,201	1,201	0
徴収不能引当金繰入額	4,477	6,248	△ 1,771
徴収不能額	1,365	1,299	66
予備費	496	496	0
消費支出の部合計	1,605,678	1,597,599	8,079
当年度消費支出超過額	52,382	10,434	△ 41,948
前年度繰越消費支出超過額	2,636,025	2,636,025	0
翌年度繰越消費支出超過額	2,688,407	2,646,459	△ 42,948

平成18年度消費収支予算書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

● 収入 (単位:千円)			
科 目	本年度予算額	前年度補正予算額	差 異
学生生徒等納付金	1,086,768	982,874	103,894
手数料	28,690	29,137	△ 447
寄付金	10,000	29,075	△ 19,075
補助金	452,200	453,860	△ 1,660
資産運用収入	1,920	1,270	650
事業収入	68,920	70,000	△ 1,080
雑収入	75,248	31,400	43,848
帰属収入合計	1,723,746	1,597,616	126,130
基本金組入額合計	△ 44,320	△ 44,320	0
消費収入の部合計	1,679,426	1,553,296	126,130

● 支出 (単位:千円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異
人件費	1,106,598	1,043,550	△ 63,048
教育研究費	385,400	379,800	△ 5,600
管理経費	152,320	151,686	△ 634
借入金等利息	19,800	19,800	0
徴収不能引当金繰入額	3,300	4,477	1,177
収不能力額	4,000	1,365	△ 2,635
予備費	5,000	5,000	0
消費支出の部合計	1,676,418	1,605,678	△ 70,740
当年度消費支出超過額	3,008	△ 52,382	△ 55,390
前年度繰越消費支出超過額	2,688,407	2,636,025	52,382
翌年度繰越消費支出超過額	2,685,399	2,646,459	△ 1,177

東北生活文化大学

家政学科

家政学科では平成18年4月に川村奎子先生が教授に川又勝子先生が講師に昇進し、新しい年度がスタートした。平成17年10月1日には当学園に外国人留学生支援・相談室が開設され、近年家政学科にも増加している留学生をサポートする組織が整備された。10月22、23日には大学祭が開催された。例年の出店、展示、ファッションショーに加えて、スペシャルゲストとして「はな」や「ケロボンズ」を迎え大いに盛り上がった。11月1日には家政学科課題研究の中間審査が行われ、また同日、石井美奈子先生が建築高校で「家政部でファッションを学ぶ」と題して、高校生を対象に講義を行った。11月12日当学園で消費能力検定試験が実施され、家政学科から多数が受験した。11月26日には家政学科特別セミナーが開催された。「進路について考える～先輩を囲んで～」との内容で当学園の先輩である鈴木寛子さん、板橋並子さんを講師に迎え、116名の学生が参加した。平成18年1月31日、2月1日には課題研究発表会が百周年記念棟で行われた。この成果は、卒業式の3月15日に課題研究展として発表され、多くの保護者の方々にもご覧いただいた。

生活美術学科

新学期も始まり二ヶ月が過ぎ、学園も落ち着いて来た。学科は設立41年を迎え、昨年と同じメンバーで学科の運営に携わっている。5月23日～7月9日までカメイ記念展示館にて吉見庄助先生の百歳を記念しての展覧会が開かれている。当学科の創設時から20年あまりにわたり教鞭を執られた。現在もなお意欲的に創作活動を行っており、今後もますますのご活躍を祈念する。

学校行事として、2月に第38回卒業制作展（せんだいメディアテーク2/10～2/15）が行われ多くの方に見て顶いた。

（以下在学生の活動を列記する。）

- 12月 絵画ゼミナール、壁画ゼミナール展（せんだいメディアテーク）
 - 1月 デザインゼミナール展（野中神社ギャラリー）
 - 2月 菅野麻衣子個展（リプリッジ・エディット）
 - 3月 版画ゼミナール展、「東北・大学版画交流展 JUNKTION展」（せんだいメディアテーク）
 - 4月 連休に定禅寺アートフェスティバルに多くの学生が一番町のアーケードなどで作品をペニヤサイズに描き展示了。
 - 5月 大友映子個展（野中神社ギャラリー）
- この他にも学生、教員、卒業生と様々な場所で作品の発表が行われている。

東北生活文化大学短期大学部

短期大学部は「生活学専攻」と「子ども生活専攻」の2専攻制として2年目を迎えた。両専攻とも1・2年次の学生が揃い、4月のオリエンテーションキャンプ・研修旅行では、これまで以上に活気あふれる姿がみられた。

今年度から子ども生活専攻では、幼保一元化の流れのなかで、保育士資格に加えて幼稚園教諭の免許取得も不可欠と考え、昨年よりカリキュラムの検討を重ね、9月に文部科学省に幼稚園教諭二種免許状取得のための申請を行った。その後数回、書類訂正や差し替え作業を経て、3月13日付で幼稚園教諭免許状授与の課程として認定された。

保育士の免許取得を目指す学生は、5月下旬より10日間の保育所実習を皮切りに、7月下旬に10日間の施設実習、さらに10月下旬に10日間の保育所実習、計30日間の保育実習を行うことになる。質の高い保育士の養成が望まれているなか、教員、学生ともに勉強していくなければならない。

一方、生活学専攻は、本学独自の特別講義や課題研究などで着実にその存在感を示している。生活学専攻有志による「マルチーズ味展」や「budding potters」などのグループ展はこれまでになかった活動であり今後に期待したい。

東北生活文化大学高等学校

「桃の節句」にあたる平成18年3月3日共学第一期生233名（内、男子82名）の卒業式が厳粛にしてかつ盛大に高校体育館で行われた。卒業生一人ひとり呼名の上卒業証書が授与された。壇上には、ひな飾りと五月人形の「かぶと」が仲良く並び、新しい生文大高の校風と伝統づくりに大きく貢献した卒業生の門出を祝った。次いで4月8日には、男子146名を含めた409名の新入生を迎え、在籍者数は961名となり、8年前の生徒総数に回復した。

共学3年目を迎えた平成17年度後半の生徒達の活躍は、県内に止まらず全国規模で展開し、益々活気に溢れている。

特に女子ソフトボール部2年連続の全国選抜大会出場という快挙は、本学園にとって大変名誉であると共に、在校生、同窓生、教職員にとってもこの上ない慶びである。

さらに高校では、潤いのある豊かな感性を育てようと、平成12年4月から、県内の小中高校に先駆け「朝の読書」を取り入れ、今年度で7年目を迎えた。この間、読書啓蒙活動の一環として、県内小中学校生を対象にした「読書クイズ王決定戦」や生徒自ら学校近郊の保育所に出かけ、児童を相手に手作り絵本の「読み聞かせ」の実践を行うなど読書普及活動に積極的に取り組んできた。これらのことことが認められ、平成18年度“読書活動優秀実践校”として「文部科学大臣賞」を受賞した。

このように高等学校は大きく変革を遂げ、今まで以上の成果を出してきた。これも偏り、3月退任した鈴木前校長の熱意と献身的な教育改革があったからこそ実現できたといえる。

美術・保育コースの設置、スクールバスの運行、校名の改称、男女共学制の導入と、矢継ぎ早に取り組み高校発展に多大の貢献をされた。

鈴木前校長に深甚なる感謝を表しつつ、光井正新校長のもと、地域社会から「愛され信頼される学校」作りに努めていきたい。

ますみ幼稚園

4月、ますみ幼稚園では、25名の入園により在園児と合わせて59名の子供達が、新しい一年のスタートをきった。園庭にある桜の木の下で、春の爽やかな風を体いっぱいにうけながら、元気に戸外あそびを楽しんだ。

今年度は、体育専門の講師による体操教室の導入、ペガルタ仙台のサッカー教室、セントメリースキー場へのそりすべり体験などの運動あそびを通じ「最後まで頑張ることの大切さ」「友達と力を合わせることの素晴らしさ」を伝え、「心と体」の成長への導きができるよう保育を進めています。

また、今年度より開設した未就園児教室「ますみキッズクラブ」には、親子60組の申込みがあり、5月20日の入会式から2月の終了式まで10回の保育活動を予定している。

これからも地域との関わりを大切に、地域の方々に愛される「ますみ幼稚園」作りを目指していきたい。

ますみ保育園

開園から3年目を迎える保育園では、0歳児から3歳児までのわいわいしい新入園児を迎え、65名でのスタートとなった。初めて子供を預けて仕事に向かう母親は、我が子の泣き顔に共に泣いてしまうことがある。そんな場面に保育士は、子供の気持ち、親の思いをしっかりと受け止めながら、安心して過ごせるもうひとつのおうちとしての役割を思う。

先日、4,5歳児が裏山の大年寺を登って野草園まで行ってきた。裏山は子供たちの大好きな探検コースなのだが、このような園外保育を通して子供たちは歩く力が育ち、持久力も付いてきている。もちろん給食もたっぷりと食べ、お昼寝もぐっすり。まさに「よく遊び、よく食べ、よく眠る」である。その様子はその日の内に写真にして保護者に伝えるようにしている。

今年度も子育て家庭支援活動として、学園と連携を取りながら定期的に親子サークルを実施する計画である。

訃報

本学園発展のために
ご尽力くださった方々へ
心からお悔み申し上げます。

鵜 芳子

【高校・養護教諭】（平成18年2月4日逝去）

村上 善男

【大 学 教 授】（平成18年5月4日逝去）

永澤 幸助

【高 校 教 諭】（平成18年5月10日逝去）

追悼 村上善男氏

村上先生は、昭和43年～57年まで大学生活美術学科に在籍され、昭和48年から第2代学科長（昭和50年から教授）を務められた。mishimaのロゴマークなど、学園のトータルデザインイメージを創始し方向付けた。美術家として現代美術の第一線で活躍され、高い評価を得て国内外の多くの美術館に作品が収蔵されている。師・岡本太郎の意を体して、東北の民俗学的視座から作品に取り組み、鋭い視点の論考著作による独自の芸術論を展開された。心からご冥福をお祈りする。

理事会の主なる議題

- 平成18年1月21日(土)
(記念棟2階会議室)
- 人事について
- 学内規定の新設・改定
- 就業規則変更について
- 子育て・家庭支援センター設置

- 平成18年3月25日(土)(記念棟2階会議室)
- 平成17年度補正予算について ○ 人事について
- 平成18年度収支予算について ○ 学内規程の制定・変更

- 平成18年5月27日(土)(記念棟2階会議室)
- 平成18年度学校法人計算書類について
- 平成18年度監査報告について



「言葉なき歌」(木版画 80×110cm)

大学生活美術学科
平成17年度卒業 加藤 優一

誰もが自分の中に抱いている原風景。私は水をモチーフにその風景をイメージし、三版多色刷りによる水性木版を用いて制作した。水の爽やかな揺らぎ、静けさの中の響きを、バラードの旋律に例えて、版という楽譜を頼りに口ずさんだ。

「言葉なき」とは、「言葉で表現することができない」という意味も含むが、私にとって「遠まわりしながらも完成できたことへの喜び」を表している。

(本人談)

編集後記

小誌を刊行して早3年目を迎える。この間の本学園の教育改革は多方面に及び、手前味噌ながら着実に成果を上げてきたといえる。近時は学園における教育成果を地域の方々に還元したく、諸種の地域貢献のための方策やその情報発信に鋭意努めている。紙面にもその一端が見て取れよう。小誌が今後もその一助たりえれば幸いである。

(三島学園広報委員会)

学校法人 三島学園 学園報 第6号 平成18年6月1日発行 三島学園広報委員会編集

III 学校法人 三島学園 〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1-18-2 TEL.022-272-7511(代) FAX.022-272-7516
[URL] <http://www.mishima.ac.jp> [E-mail] hojin@mishima.ac.jp



古紙配合率100% 白度70%
再生紙を使用しています



環境に優しい大豆油
インキを使用しています

印刷／笹氣出版印刷株式会社